

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 3 月 22 日 (火) 23:10~24:00

場所：東京電力本館 1 階 AB 会議室

先方：記者約 50 名 (カメラ 11 台)

当方：原子力設備管理部

原子力設備管理部

広報部

配布資料：

- ・福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について
- ・【参考】発電所敷地内における空気中放射性物質の核種分析結果について

概要：

(冒頭、22 時 43 分に 1 F 3 中央操作室の照明が点灯したことについて報告。1 F 6 は、ディーゼル発電機を活用して中操の照明は点灯しているが、外部電源を活用しての照明の点灯は、地震後初)

Q. 今回の発表の趣旨は。

A. 今回は昨日発表したものの続報としてお持ちしているもの。データ集約に時間がかかっているものもあり、分かったものを順次お持ちしている。

Q. 放射性物質放出の影響に関するシミュレーションの公開可否についてはどうなったか。いつまでに回答してくれるのか。期日を示して欲しい。

A. どのような形でお示しできるかも含めて、明日、遅くとも、副社長の武藤が会見する時までには回答する。

Q. 3 月 18 日までのデータは分析しているのか。

A. 1 F は核種分析する装置にアクセスできなかったため、これまで核種分析できなかった。そこで、19 日にサンプルを採取して、2 F に持って行って分析を実施したため、そのデータをお示ししているもの。

Q. 1 F で分析できなくて、作業員は大丈夫なのか。

A. モニタリングカーを用いて、全体の量については計測しているため問題はない。核種分析ができなかったということ。

Q. 何を目的にして核種分析を行ったのか。

A. 作業環境を把握したり、放出された経緯から設備の状況を類推したりすることを

目的としている。もちろん、周辺への影響も確認するためでもある。

Q. 周辺住民は、当該データをみてどう評価すればいいのか。

A. 発電所から遠い箇所でのデータがとれていないので、本データだけだと何とも言えない。

Q. ヨウ素 131 は減ってきている一方、セシウム 137 は増えてきているようだが、原因をどう考えるか。

A. ヨウ素 131 は、拡散して濃度が薄くなっていることや半減期が 8 日であることなどが要因として考えられる。ただし、セシウム 137 の増加の要因は分からない。

Q. どのプラントからの影響が大きいのか。

A. 現時点では、分からない。

Q. 基準値はどういった前提か。

A. 1 年間この濃度の空気を吸った場合を想定している。具体的には、1 週間 40 時間で 50 週、年間計 2,000 時間の労働を前提としている。

Q. どのようにサンプルを採取しているのか。

A. 20 分、その場所の空気を吸引して、フィルター上に捕捉している。

Q. プルトニウムは検出されていないのか。

A. 対象となる核種は 50 種類程度あるが、この装置で検出できる  $\gamma$  線を放出する核種をお示ししている。

Q. プルトニウムは、測定していないのか。しなくていいのか。

A. この装置では測定できないが、 $\gamma$  線の放出具合から、直接測定しなくても、プルトニウムの放出の有無は想定できると考えている。

なお、実施する場合は、当社設備ではできないため、サンプルを国の機関等に持ち込む方法をとることになる。

Q. 通常時はそれでもいいが、今回のような事故時には測定するべきではないか。特に 1 F 3 は MOX 燃料を使用しているプラントでもあり、これまで東電は、MOX 燃料を軽水炉で燃焼させても問題ないと説明してきたのだから、核種分析をしてプルトニウムがでていないことを証明するべきでないか。

A. 検討する。

Q. 海水の採取状況は。

A. 採取は終わっている。順次、分析していく。

Q. 2Fでは、当初測定時間が1,000秒だったが、それを500秒に変更しているが理由は。

A. 確認する。

Q. 資料には、bq表示をしているが、一般の人は、人体への影響を気にするわけで、そういったことから、sv表記した方がいいと思うがどうか。

A. 検討する。

Q. 1F1で、格納容器の設計温度を超えているという話があるが事実か。

A. 確認する。

以上